

老人の肺炎

室田内科医院 室田直樹先生

現在、我が国の死因の中で肺炎は第四位を占める重要な疾患であり、特に老人では肺炎による死亡が多くなっています。老人は肺炎にかかりやすいうえ、重症化しやすく、治りにくいと考えられます。

①老人の易感染性: 老年者では加齢とともに咳反射の低下や気道線毛運動の低下があり、外部からの細菌が侵入しやすくなっています。さらに長期臥床中の老年者では誤嚥しやすく、癌や糖尿病や肺気腫などの基礎疾患を持つものが多いことも肺炎にかかりやすくなる要因となつています。

②肺炎の重症化: 老年者では免疫力の低下や低栄養、合併症などにより体の抵抗力が弱くなつています。そのため、敗血症や呼吸不全や多臓器不全など重症になりやすくなつており、また若年者に比べて咳・痰・発熱などの肺炎に特徴的な所見に乏しく、呼吸困難、食欲不振、意識障害などを初発症状として発症することも多く、早期に発見しにくいことも重症化の要因となつています。

③肺炎の難治性: 老年者では免疫力の低下、低栄養、合併症などの影響を強く受け、肺炎は治りにくくなつており、また複数菌感染や多剤耐性菌なども多く、抗生剤が効きにくいことも関連しています。

なんとなく元気がなく、食欲がないなどの時、早めに医療機関で受診し、胸部レントゲン撮影などにより早期に発見し、適切な医療を受けることが大切です。